

科目名	履修学年	単位数	教科書	副教材等
国語教養	2	2		『中高生のための文章読本』筑摩書房

評価の観点	到達目標および評価の内容
a 知識・技能	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようになる。
b 思考・判断・表現	・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
c 主体的に学習に取り組む態度	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
評価の方法	
各定期考査、単元テスト、課題等の提出状況、学習活動への取組などの総合評価となります。	

年間指導計画											
前期					後期						
月	予定 時数	学習内容	評価の観点			月	予定 時数	学習内容	評価の観点		
			a	b	c				a	b	c
4	8	第一章 不思議を見つける 「物語ること、生きること」 上橋菜穂子 「花の色には意味がある」 稲垣栄洋		○	○	10	16	第六章 未来をつくる 「わたしが障害者じゃなくなる日」海老原宏美 「君たちは社会を信じられるか」 ブレディみかこ 「友だち幻想」 菅野仁		○	○
5	8	第二章 人と出会う 「国って何だろう？」 近藤雄生 「ナイチンゲールと統計学」 瀧本哲史		○	○	11		「まだ生まれていない人たちの幸せを考える必要があるのか」 吉永明弘		○	○
6	6	第三章 誰かとつながる 「——共感と驚異」 穂村弘		○	○	12	8	終章 読書への誘い 「読書は僕たちをグーグルマップにする」 菅野一徳	○	○	
7	8	第四章 視点を変える 「食べるとはどういうことか」 藤原辰史 「体、この不気味なもの」 伊藤亜紗		○	○	1	8	日本語と近隣の言語について	○		○
8	8	第五章 自分を生きる 「ジェンダーから自由になる」 オードリー・タン 「生きる意味を見失ったとき」 藤田正勝		○	○	2		定期考査	○	○	
9		定期考査	○	○		3					
計 70											

※原則として一つの単元ですべての観点について評価するが、特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

履修上および学習上の留意事項

- ・教員の指示に応じて教材を忘れずに持ってくること。
- ・国語はあらゆる学習の基礎となることに十分留意し、日々の授業に集中して取り組むこと。
- ・生涯にわたって使う国語の運用能力の向上を目指すこと。
- ・授業に際しては予習・復習を常とし、決して受動的な態度で臨まないこと。
- ・文章を読む活動を通して国語でものを考えるクセをつけること。